

県建設業協会

高校生が生の現場を体験

「建設現場見学会」実施

奈良朱雀高

奈良県建設業協会(松本良三会長)は14日午後、「建設現場見学会」を新奈良県総合医療センター新築工事現場(奈良市七条西町)で実施した。

当日は、県立奈良朱雀高等学校から建築工学科2年生の生徒35名(男子29名、女子6名)と引率教員の松山義広建築工学科科

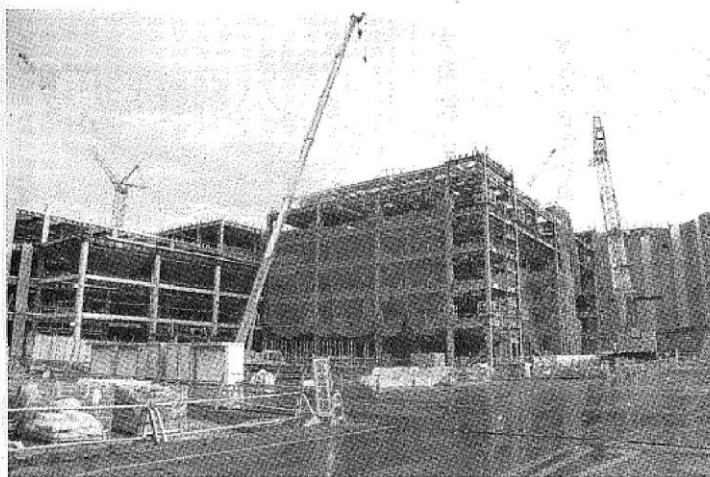
長、花谷隆氏、荻田高弘氏の3名、奈良県から医療政策部新総合医療センター建設室の岡本好弘室長と赤阪研一室長補佐、施工の奥村村本・山上JVから井上道雄奥村組奈良支店副支店長、木村真也現場代理人ほか工事関係者、主催者の建設業協会から吉岡専務理事、平松友栄総務調整

課課長の総勢約50名が参加した。生徒らは、現地に到着後、現場事務所2階会議室に集合。井上副支店長が進行役を務め、岡本室長は「普段勉強されている建築を、実際の現場や働く方々を見て頂きます。より興味を持って頂き、将来(進路)の参考にになれば幸いです。とにかく大きな現場です。実のある見学会にして下さい」と挨拶。木村現場代理人は概要や現在の施工状況を分かり易く説明した。

見学会は、現場南側に位置する病棟の最上階の7階へ上がり、北側の外来診療棟の鉄筋組立や躯体工事の様子を見学。病棟上階から

順に各種工事の様子の説明を受けた。地下の免震構造には興味深く熱心に見聞きしていた。現場東側のエネルギーセンター棟では、発電室内部や教育研修棟の外壁工事を見学、免震構造で揺れ部分を想定した隙間の説明にはメモをとるなど耳を傾けていた。

会議室に戻った生徒達と木村代理人による質疑応答では、松山教諭が「現場で働く人数と一番気を付けている」を質問。木村代理人は「今日は300名弱は、今日は300名弱は、1300人を予想している。現場は安全第一をモットーにしている。県の代表する建物をバランスよく進め、無事故無災害で工期を全うしたい」と返答。吉岡専務は「今の2年生は出前講座、教育体験なども経験している。業界に興味を持って頂いているものと期待している。今後も入職体験などを重ねて多くの若者が業界に入ってくれるよう努力したい」と話していた。



北西から見た建設現場



松山教諭



岡本室長

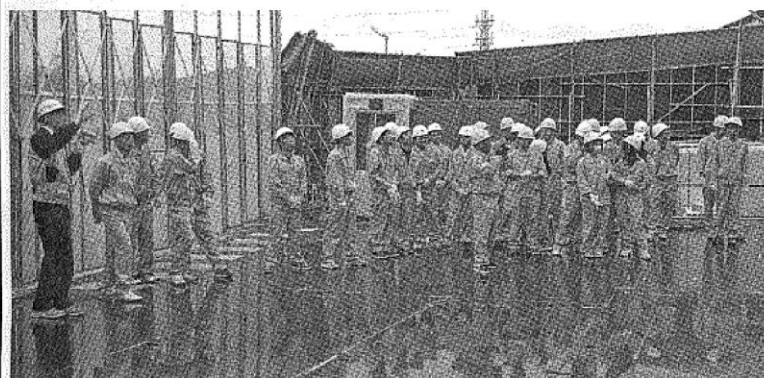


吉岡専務



木村現場代理人

若年者の入職促進に期待



木村現場代理人は概要や現在の施工状況を分かり易く説明した。見学会は、現場南側に位置する病棟の最上階の7階へ上がり、北側の外来診療棟の鉄筋組立や躯体工事の様子を見学。病棟上階から



免震の揺れ部分を説明

働いた汗に報いる退職金  
1日1枚手帳に証紙

**建退共**

奈良県支部 Tel: 0742-22-3345  
※詳細はお問合せ下さい

事」を質問。木村代理人は「今日は300名弱は、今日は300名弱は、1300人を予想している。現場は安全第一をモットーにしている。県の代表する建物をバランスよく進め、無事故無災害で工期を全うしたい」と返答。吉岡専務は「今の2年生は出前講座、教育体験なども経験している。業界に興味を持って頂いているものと期待している。今後も入職体験などを重ねて多くの若者が業界に入ってくれるよう努力したい」と話していた。